



電磁波レーダーを活用した床版土砂化の 予防保全に関する取組を実施



国道7号 弘前大橋にて若手技術職員が見学

国道7号線 弘前大橋において、国立研究開発法人土木研究所による「電磁波レーダーを活用した床版土砂化の予防保全に関する取組」として研究している現地調査の現場を、当青森河川国道事務所の若手技術職員が6月20日(木)に見学しました。

土木研究所では、床版の土砂化の状態を検知する様々な手法で調査を実施し、効率的なメンテナンスフローを確立するための研究として、本取り組みを行っています。

若手技術職員は、土木研究所職員の方から、調査の目的・作業概要など説明を受けて、実際にカート式電磁波レーダーを使用して調査を行い、舗装面の下にある目視できない部分の床版の状態について、レーダー画像で確認しました。

～若手技術職員の声～

現地見学を通して、今後の維持管理の分野では、簡易的な調査を行い、なおかつ早期段階で維持対応など進めていけるよう新技術を活用していこうと思います。

▽作業風景▽

